



令和5年6月21日

東京都千代田区四番町5番地3
科学技術振興機構（JST）
Tel：03-5214-8404（広報課）
URL <https://www.jst.go.jp>

「次世代科学技術チャレンジプログラム」 令和5年度採択機関の決定について

JST（理事長 橋本 和仁）は、「次世代科学技術チャレンジプログラム」における令和5年度採択機関を決定しました（別紙1）。

次世代科学技術チャレンジプログラムは、グローバルサイエンスキャンパス（主に高校生が対象、平成26年度開始）とジュニアドクター育成塾（小中学生が対象、平成29年度開始）を発展的に統合し、小中高校生を対象とした長期的かつシームレスな育成プログラムを新たに設け、令和5年度より開始した事業です。本事業では、科学技術イノベーションを牽引する次世代の傑出した人材を育成するため、初等中等教育段階（小学校高学年～高校生）において理数系に優れた意欲・能力を持つ児童生徒を対象に、その能力などのさらなる伸長を図ることを目的とします。探究活動、STEAM教育、アントレプレナーシップ教育、国際性の付与などの高度で実践的な取り組みをはじめとした、実施機関や地域などの特徴を生かした多様で挑戦的な取り組みを支援します。支援期間は最長5年間、支援金額（上限）は1年当たり1,000万円～4,000万円です。

本年度の公募は、令和5年2月9日（木）から3月29日（水）の期間に行い、対象とする児童生徒の学年段階により小中型、高校型、小中高型の3つの申請タイプを募集し、計29件（小中型11件、高校型9件、小中高型9件）の応募がありました。その後、外部有識者で構成される委員会（別紙2）にて審査し、その結果をもとに計12件（小中型6件、高校型3件、小中高型3件）の採択機関を決定しました。

なお、事業の詳細については下記のホームページを参照してください。
ホームページURL：<https://www.jst.go.jp/cpse/stella/>

<添付資料>

別紙1：次世代科学技術チャレンジプログラム 令和5年度採択機関・企画一覧

別紙2：次世代科学技術チャレンジプログラム 推進委員会 委員一覧

参考：次世代科学技術チャレンジプログラム 令和5年度募集概要

<お問い合わせ先>

科学技術振興機構 理数学習推進部 能力伸長グループ

〒332-0012 埼玉県川口市本町4丁目1-8 川口センタービル

亀井 威則（カメイ タカノリ）

Tel：048-226-5669

E-mail：[stella\[at\]jst.go.jp](mailto:stella[at]jst.go.jp)

機関名	企画概要
企画名	
<p>東北大学 (共同機関：岩手大学、宮城教育大学)</p> <hr/> <p>小中高大連携型「科学者の卵養成講座」</p> <p>【小中高型】</p>	<p>研究型大学として世界的な研究成果を多数発表している東北大学を中心に、共同機関の岩手大学と宮城教育大学、そして東北・北関東地区の各教育委員会などと連携し、卓越した意欲および能力を持つ小中高校生を集め、将来国際的に活躍できる「科学者の卵」を養成するプログラムを実施する。未知なる科学に対する強い興味と探究心を持つ小中高校生を広く募集し、長期に育成するプログラムを実施する。大学の多彩な研究教育資源を活用し、高レベルの講義や実習と研究活動、加えて多様な価値観を持った人的交流を通して、領域横断的な発想力と試行錯誤の中で真理を見つける「科学の眼」を持つ科学技術人材育成を目的とした、世代を超えた小中高大連携型STEAM教育を実施する。</p>
<p>東京大学</p> <hr/> <p>未来を切り拓くグローバル科学技術人材の育成プログラム：UTokyoGSC-Next</p> <p>【小中高型】</p>	<p>社会の複雑性・不確実性が増している中、未来に向けて不確かな時代を切り拓く幅広い見識とアントレプレナーシップにつながる主体性・創造性を持つ人材育成は急務である。本企画では、世界トップレベルの総合大学としての「総合知」を基盤に、複数回の課題研究を通して小中高課程をシームレスにつなげる3段階の教育プログラム「UTokyoGSC-Next」を開発し実施する。グローバルな視点に立って「新しい知の創造」、そして「社会的価値の創造」を実現できる総合知を育み、主体性・創造性を持つグローバル科学技術人材の育成を目的とし、教科等横断的なSTEAM教育を通して、発達段階に応じた5つの能力、①知識俯瞰能力、②情報分析能力、③課題発見・解決能力、④コミュニケーション能力、⑤研究検証能力を育成することを目標とする。</p>
<p>金沢大学</p> <hr/> <p>小中高大院混成プログラムによる未来の課題を探究・克服する科学技術イノベーターの育成</p> <p>【小中高型】</p>	<p>本企画の狙いは「好奇心と自発性」を持つ全国の小中高校生が、最長5年間の長期にわたる教育・研究活動を通じて、好奇心を広げつつ広範な科学知識と技術を修得し、主体性と探究力を飛躍的に向上させる場の構築にある。まず科学技術の知見を吸収し、課題を探究できる「意欲と素養」を持つ児童生徒を見だし、個性と関心に寄り添って、知識、意欲、資質をさらに伸ばせる「さまざまな場」を提供する。その学びにより、科学技術を正しく理解し駆使する基盤的な知見を備え、自らの頭で考えて自然や社会の課題を発見し、主体的に解決方法を追求・活用することで、科学技術をはじめさまざまな分野の発展や世界の課題の解決を先導できるイノベーション人材の輩出を目指す。</p>

次世代科学技術チャレンジプログラム 令和5年度募集概要

1. 趣旨

本事業では、科学技術イノベーションを牽引する次世代の傑出した人材を育成するため、初等中等教育段階（小学校高学年～高校生）において理数系に優れた意欲・能力を持つ児童生徒を対象に、その能力のさらなる伸長を図る多様な育成プログラムの開発・実施を支援します。

育成プログラムについては、探究活動、STEAM教育、アントレプレナーシップ教育、国際性の付与などの高度で実践的な取り組みをはじめとした、実施機関や地域などの特徴を生かした多様で挑戦的な取り組みを求めます。これに加え、本事業の中で開発された人材育成手法について継続的な成果の把握、事業改善を通じて有効性の向上を図るとともに、広く普及させることで社会全体への効果の還元も目的とします。

2. 募集対象

国公立大学（大学院大学を含む）、高等専門学校、公的研究機関、科学館、博物館、公益法人、NPO法人、民間事業者（※法人格を持つことが必要）およびこれらの施設・法人の共同による実施

3. 支援期間

最長5年間

4. 採択数・支援額

13件程度（1機関当たりの支援上限額 小中型：1,000万円、高校型：3,000万円、**小中高型：4,000万円／年度**）

5. 募集期間

令和5年2月9日（木）～3月29日（水）

6. 募集の詳細

募集の詳細については下記のホームページを参照してください。

<https://www.jst.go.jp/cpse/stella/>